

事業成果報告書

1. 教育委員会名 : 占冠村教育委員会
2. 研究主題 : 〔調査研究Ⅱ〕小規模校を存続させる場合の教育活動の高度化
3. 研究タイトル : 占冠村大好き教育推進プロジェクト
4. 研究課題 :
 - (1) 小規模校のメリットを最大化させる方策
 - ア. 少人数であることを最大限に生かした教育活動に関する研究
 - イ. その他、創意工夫を生かして小規模校や複式学級設置校のメリットを最大化させる先進的な方策
 - (2) 小規模校のデメリットを最小化させる方策
 - ア. 学校間ネットワークの構築
 - イ. 社会教育と密接に連携した学校教育活動
 - エ. その他、創意工夫を生かして小規模校や複式学級設置校のデメリットを最小化させる先進的な方策
5. 事業の実績

(1) 調査研究のねらい

「少子高齢化が全国に先駆けて進む占冠村において、子供達の育成は村の存続に係るとしても重要な課題であるが、村内の小中学校は小規模化が進んでいる。これらの学校を存続させていくために重要な小規模校のデメリットの解消のため、学校と村内外を繋ぐネットワークを構築し、地域の大学やリゾート企業と連携したふるさと学習や外国語学習を行うことで、小規模校で不足しがちな多様な価値観に触れる機会を確保する。また、小規模校であることのメリットを生かし、教材教具を一人一人に行き渡らせた教育活動やショー&テル等、少人数でなければできない教育活動を充実させる。これらの取組を通じて、小規模校の課題を解決すると同時に、活動力、基礎学力、英語力など子供達の生きる力を育み、「占冠村大好き」と思える子供たちの育成を推進する。」

そのため、次の具体的目標を立て、研究を進めていく。

- (1) 小規模校のメリットを最大化させる方策
 - ア. 少人数であることを最大限に生かした教育活動に関する研究
 - ①ショー&テル ②英語学習 ③個人カルテ
 - イ. その他、創意工夫を生かして小規模校や複式学級設置校のメリットを最大化させる先進的な方策
 - ④タブレット活用 ⑤学習環境整備
- (2) 小規模校のデメリットを最小化させる方策
 - ア. 学校間ネットワークの構築
 - ⑥コミュニケーションシステムの活用 ⑦協力大学とのネットワーク構築
 - イ. 社会教育と密接に連携した学校教育活動
 - ⑧地域教育力を最大限に活用した教育活動 ⑨村内リゾートの海外従業員の活用等
 - エ. その他、創意工夫を生かして小規模校や複式学級設置校のデメリットを最小化させる先進的な方策
 - ⑩異年齢交流やアスペン市からの留学生との交流 ⑪学習サポートの充実

(2) 調査研究の実施状況（平成27年度）

10月	<ul style="list-style-type: none"> ○本事業事業企画提案書に沿った、校内体制の準備や外部有識者等への依頼 ○全児童の学力や体力等の個人カルテ作成準備…③ ○ICT機器導入の準備（機器の活用に関する研修の実施）…④ ○占冠村、北海道大学環境科学課、トマム星野リゾート三者連携による「川の学校」の実施と大学院生を講師とした遠隔事業についての大学への実施依頼…⑧ ○朝の会や帰りの会で全学年のショウ&テルの全学年実施開始…① ○土曜授業実施に向けた外部講師依頼…②⑩⑪ ○学校間ネットワークテスト…⑦ ○各学年における「ふるさと」学習の実施…⑧
11月	<ul style="list-style-type: none"> ○中学校教諭による英語出前講座の実施…② ○教育課程編成のための情報収集（先進地区視察…② ○全児童の学力や体力等の個人カルテ作成…③ ○土曜学習2回実施（1～3年 3校時）英語活動、漢字計算の定着、卓球…②⑩ <li style="padding-left: 20px;">（4～6年 3校時）英語活動、卓球…②⑩ <li style="padding-left: 20px;">漢字計算の定着…⑩ ○小中一貫英語学習の教育課程検討委員会の立ち上げ…② ○各学年における「ふるさと」学習の実施…⑧ ○学校間ネットワーク環境の確立と検証…⑥ ○校内無線LAN環境整備・タブレット活用開始…⑥ ●寿都町「英語教育強化地域拠点事業」公開研究1名 ●寝屋川市小中学校英語教育特別推進地域研究発表会1名 ●明日の学びを考える授業実践～タブレットPCの効果的な活用～2名 ●鹿追町英語教育視察2名
12月	<ul style="list-style-type: none"> ○中学校教諭による英語出前講座の実施…② <li style="padding-left: 20px;">英語学習先進地区視察報告と検討…② ○土曜学習1回実施（1～3年 3校時）…②⑧⑩ ○各学年における「ふるさと」学習の実施…⑧ ●平成27年度北海道土曜授業カリキュラム等検討委員会成果発表会1名 ◆第1回占冠大好き教育推進委員会
1月	<ul style="list-style-type: none"> ○中学校教諭による英語出前講座の実施…② ○土曜学習1回実施（4～6年 3校時）…②⑧⑩ ○各学年における「ふるさと」学習の実施…⑧ ◆第2回占冠大好き教育推進委員会（有識者 岩瀬氏・萬谷氏・谷川氏） ◆ショウ&テル校内研修会 講師 東京学芸大学准教授 岩瀬直樹氏 ◆英語教育校内研修会 講師 北海道教育大学英語科教授 萬谷隆一・前寿都町教育町 早瀬良樹氏
2月	<ul style="list-style-type: none"> ○中学校教諭による英語出前講座の実施…② <li style="padding-left: 20px;">小中一貫英語の教育課程編成の編成のねらいと編成計画の決定…② ○土曜学習2回実施（1～3年・4～6年 各3校時）…② トマムリゾート韓国籍従業員講師 パク氏 ○占冠村、北海道大学環境科学課、トマム星野リゾート三者連携による「雪の学校」の実施…⑧ ○各学年における「ふるさと」学習の実施…⑧ ○村内学校間ネットワークや協力大学とのネットワーク環境確立と検証…⑥ ●東京三鷹市三鷹中央学園視察～我が国の伝統文化教育の充実に係る調査研究報告～1名 ●文科省委託事業「英語教員の英語力・指導力強化のための調査研究事業シンポジウム」1名 ●第3回占冠大好き教育推進委員会 有識者 北翔大学教授 谷川松芳氏 ●寿都町英語教育校内研修会 講師 寿都町前教育長 早瀬良樹氏
3月	<ul style="list-style-type: none"> ○土曜学習成果と課題について検証…②⑩⑪ トマムリゾート韓国籍従業員講師 パク氏 ○メープルシロップづくりのための楓の樹液採取と、メープルシロップ作りの実施…⑧ ○各学年における「ふるさと」学習の実施…⑧ ○事業報告「占冠大好き教育」研究報告書作成

6. 事業の成果

(1) 研究課題に応じて設定した具体的目標に対する達成状況

<p>課題(1)ア</p> <ul style="list-style-type: none">○ショウ&テルを10～3月の間、全学年実施し、有識者からの指導を受け、次年度への計画を立てた。…①○ショウ&テルの評価規準を作成するとともに、個々の記録を残し改善を図った。…①○英語学習へ向けた有識者の指導を受け、次年度の校内研究主題を英語科に定めるとともに、英語学習を年間、 低学年20時間・中学年35時間・高学年41時間確保し次年度の授業を実施…②○月2回の土曜学習を実施し、英語学習や卓球をはじめ海外からのリゾート従業員による国際理解教育を実施した。…②○個人カルテの掲載内容を検討し、ファイルを作成した。教科の定着度をはじめ社会教育への参加状況等も掲載し中学校への引き継ぎに活用していくことを決定した。…③
<p>課題(1)イ</p> <ul style="list-style-type: none">○タブレットの試験的導入とeライブラリの児童一人一人のID設定により、児童一人一人が学習の振り返りが可能となり、その活用状況を把握しながら指導の充実が図られた。…④○図書室やホールでもインターネットが活用できる学習環境を整えた。特にホールの壁をスクリーンとして活用した。⑤
<p>課題(2)ア</p> <ul style="list-style-type: none">○学校間ネットワーク機器の試験的運用により、ネットワーク機器の接続テストを実施し遠隔授業や学校間ネットワーク活用の授業が可能となった。…⑥○協力大学との遠隔授業の実施について、大学との打合せを実施した。次年度から実施する予定。…⑦
<p>課題(2)イ</p> <ul style="list-style-type: none">○村・リゾート・北大の三者連携協定による「川の学校」や「雪の学校」を教育課程に位置付けるなど、各関係機関を活用した「ふるさと学習」が充実した。特に「メープルシロップ」「化石」等地域題材を活用した学習が実施され、次年度向け「占冠神楽」という伝統文化の学習が予定された。…⑧○村内リゾートにおける外国籍従業員による国際理解教育を実施した。また、新年度に向けて、北海道大学の外国籍の大学院生による「国際感覚を高めるプログラム実施」について4回の打合せと大学院生の本校視察を受け入れた。…⑨
<p>課題(2)エ</p> <ul style="list-style-type: none">○アスペンからの留学生を受け入れ…全児童が英語で自己紹介したりゲームで交流した。また、学年を超えた班編制による地域高齢者との交流も実施し児童の社会性の育成が図られた。…⑩○長期休業中の学習サポートや放課後の学習や遊びのサポートについて、協力大学の学生ボランティアや地域見守りボランティアをはじめとして村の商工企画所属である村おこし協力隊も講師に活用した学習環境が整った。…⑪

(2) 成果物等

<ul style="list-style-type: none">①「占冠大好き教育」研究報告書②研究報告補助資料 活動DVD③パンフレット～中央小コミュニティースクール④パンフレット～学習環境の充実に向けて⑤占冠学びの10箇条

(3) 今後の取組予定

- 高学年における英語によるショー＆テルの活動の実施…①
 - 小中一貫した英語活動の教育課程編成の検討開始と年間20時間程度の実施…②
 - 個人カルテの活用と成果の検証…③
 - タブレット端末によりデジタル教材を活用して視覚化を図った理解を深める授業の実践…④
 - 児童コンピュータをタブレットパソコンへと移行し、児童一人一人がタブレット端末を活用した授業を実施…⑤
 - 集合学習で実施してきた、学習内容の一部を学校間ネットワーク活用による授業へ移行…⑥
 - 高学年の環境教育を中心にネットワークを活用して専門的な内容にリアルタイムに触れる学習を展開…⑦
 - 北海道大学との連携における「川の学校」や「雪の学校」の他「雲の学校」や「ふるさと大好きリレー講座」を実施…⑧
 - いろいろな国々のトマムリゾート従業員を講師にした「国際理解教育」や「キャリア教育」を5時間実施…⑨
 - 各教科や学校行事等において異年齢交流を取り入れた「思いやりや相手を敬う心などを育てる活動」を実施…⑩
 - アスペン留学生（中学生）と村内小中学生の交流で、「英語学習の成果を試すためのゲーム活動」を実施…⑩
 - 長期休業中や放課後、土曜授業の中で学習サポートを実施…⑪
 - 日高青少年自然の家の通学合宿に町内小学生が参加…⑪
- ※「川の学校」「雪の学校」とは、北海道大学院生の講師による、村内小学生を対象にした授業
※「ふるさと大好きリレー講座」とは、地域おこし隊との連携による、一人の講師が年間3回程度地域学習をするというもので、高学年が年間6時間程度実施